

森林官の一日

利根沼田森林管理署 相俣森林事務所

森林官 目黒 美紗子



森林官という仕事は、山好きな人にとつてまさに天職です。

国民の財産である国有林を、お預かりして管理している林野庁。その現場組織である森林事務所に所属する森林官は、もともと近い場所で見ることが出来る役職です。

国有林の中には実に様々なタイプの森林の顔があります。スギやヒノキの人工林、巨大なブナの天然林、森林限界を超えた高山帯…。これらの山を今後どのように管理してゆけば、人や動物にとつて、よりよい方向に持つていくことができるのか。森林官は自分の足で現場を歩き、自分の目で山を見て、常にそのことを考えるのが第一の仕事です。

私の管理している国有林は、太平洋と日本海の気候が混じり合う群馬県北部に位置し、谷川連峰の一つである千ノ倉・平標といった高山に囲まれた1万坪です。標高差は約1400mで、中腹にはブナを中心とした雄大な自然林が広がり、イヌワシ・クマタカ・ツキノワグマを始めとした、多くの野生動物が生息して



雪の中での林況調査

います。また、標高の低い箇所や林道沿いにはスギ・カラマツ・ヒノキといった人工林が展開しています。

地元の人々の多くは、昔から林業や炭焼き、自然の恵みである温泉を利用した観光業などを生業としてきました。林道沿いの森の中をパトロールすると、沢山の炭焼き窯跡を発見することができ、古くからこの地域の人が山と生活を共にしてきたことを、肌で感じるができます。スギを始めとした人工林の多くは、今まさに成長中で、より良い材に育

て上げる・山の環境を整えるために、間伐や除伐といった、適切な管理をしてあげなくてはなりません。

また、今後は人工林を少しずつ、針広混交林や自然林に戻していくことも視野に入れた作業が必要です。地元出身で、これまでずっと山を見てきた現場作業員の方と一緒に、どのように手を加えるべきか計画を立て、実行に移していくことが人工林での大きな仕事になります。

さらに、現在私の管内では「赤谷プロジェクト」という取り組みが行われています。

これは、地域の地域協議会と、(財)日本自然保護協会、そして私達関東森林管理局の3団体が、生物多様性の復元と持続的な地域社会作りを二大目標に、国有林を共同管理す



赤谷プロジェクトのメンバーとの現地調査

る、非常に重要なテーマを持った取り組みです。

生物多様性の復元に関しては、科学的根拠に基づいてその方向性を探っているため、植物や動物の調査方法を目の当たりにすることができません。また、この活動を通して、山と生活を共にする地元の方々や、日本の森をどうするべきなのかを真剣に模索する方達と交流する機会が増えました。

そこで学んだことは、今国有林に必要なことは、昔から引き継いだ人工林を手入れしていくと同時に、国民と森との新たな関わり方を考え提示していくことだ、ということです。

まだ森林官を勤めて1年ですが、少しでも長くこの地域と山とを見続け、自分が日本の森の将来のために、何ができるのか考えていきたいです。



現場から帰って事務の整理